



もうすぐ！
みなさんお待ちかねの 新そばまつりは、

11月9日(日) 開催

今年は、**上田市誕生20周年記念**

みんまで食べに来てね〜



真田の郷大収穫祭 第31回 新そばまつり

と銘打って、収穫したての真田産新そばはもちろん、盛りだくさんの真田の味覚を取り揃えた青空市、毎回大人気の九度山町の富有柿、そして、近隣の新鮮市・みどりの大地・プランソレイユ・若林パンとタッグを組み、これまで以上にパワーアップした新そばまつりとなります。今回も真田中学校吹奏楽部の演奏や福引きなど、お客様に大好評の企画もご用意してます。詳細は10月25日(土)の朝刊折込チラシをご覧ください。秋空の下、真田の郷の秋の恵みで、お腹いっぱい楽しい時間をお過ごしください。多くの皆様のご来場お待ちしております。

真田新そば 600食 ご提供 (テイクアウト含む)

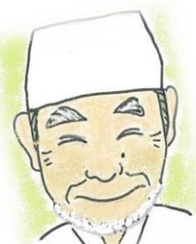
もりそば 700円



*テイクアウトは事前予約のみです。
当日の販売はありません。

「真田の里そば打ち会」の会員総出で、腕を振るって新そばを打ちます！

そして、会長こだわりの鰹だしのきいた手作りのそばつゆで、この日 会場でしか味わえない茹でたての新そばを堪能してください。



真田の里そば打ち会
宮原会長

今年も同様に新そば祭りが開催されます。風味豊かな新そばを「真田の里そば打ち会」のメンバーが気持ちよく打ち、皆様のご来場をお待ちしております。

おしらせ

真田の里そば打ち会では、新会員を募集しています。そば打ちに興味のある方、そば打ちの腕をみがきたい方、初心者も歓迎。まずは、一緒にやってみませんか？後日、講習会を予定しております。詳細が決まり次第、ホームページやメール配信にてお知らせいたしますので、お気軽にご参加ください。



裏面もご覧ください。



内川のりんごは
「新鮮市真田」や
長和町の「黒耀」で
お求めください

真田育ちのりんごがとびきりおいしくなる
ワクワクの季節がやってきました。
ということで、今回は

傍陽地区のりんご農家 内川さんのりんご畑へ突撃取材

取材日の9月26日は、**シナノドルチェ**の収穫真っ最中でした。

今年の夏は酷暑でしたが、りんごの生育に影響はなかったですか？

内川さん: 去年よりいいよ。9月20日頃から、急に朝晩涼しくなって、色づきもよくなったよ。りんごは朝の気温が低くならないと色がつかないからね。

予想外の嬉しいお答え よかった♡

あの連日の暑さでも、りんごが焼けたいしなかったのですね？

内川さん: ヒョウ&日焼けを防ぐためのネット(右写真)を屋根状に設置しているから大丈夫。

さすが、天災対策は万全
設備投資を惜しまない内川さん

シナノドルチェ

内川さんの言葉どおり、高密植わい化栽培の木に、おいしそうに色づいたシナノドルチェがたわわに実っていました。背高のつぼの細い1本から、なんと50個くらい収穫できるそうです。1個1個丁寧に もいでいく内川さん。その姿は、内川さんのりんご愛を感じずにはいられませんでした。



内川さん: シナノドルチェの名前は、誰がつけたか知ってる？

う〜ん JAの人??? (苦笑)

内川さん: 元長野県知事の 田中康夫さん だよ。

「ドルチェ」はイタリア語で「デザート」の意味。
田中康夫さんらしさを感じるネーミングです。

10月初旬には**秋映**(あきばえ)が登場。写真よりもっと濃く、黒みがかった暗紅色になると食べ頃。

この先、台風さえ来なければ順調に育っているとのこと。

りんごの王様 **サンふじ**は11月中旬頃から。楽しみです！

やや面長の
形が特徴
甘みと酸味が
半々
香りもよく
サクサク食感



内川さん悲痛の叫び

「天気よいも獣の方が怖い」

今年は、一番標高の高いりんご畑に鹿や猪、熊が出没！被害が酷いと肩を落とす内川さん。特に熊は木に登るので、直径15cmもの枝が折れ、枝にあるだけ全部の実を食べつくし、その上 糞が10ヶ所にも。その有り様を見て、愕然としたそうです。

9月26日(金) 信濃毎日新聞のコラム「斜面」では、リンゴ栽培の危機にふれ、最後に『この先も信州でリンゴが当たり前のよう実り、味わえるには、どうすればいいか。地域や消費者も一緒に考え、取り組む時にいる。』とありました。内川さんの地道に黙々と働く姿が脳裏に浮かびました。



りんご畑に設置された
熊捕獲の檻



果汁たっぷり
甘さと酸味の
バランスがよく
シャキッと食感